



大阪・関西万博をきっかけに始まったマダガスカルとの交流は、万博閉幕後も着実に広がっています。今回、駐マダガスカル兼コモロ日本国特命全権大使・戸島仁嗣氏が本市を訪問されました。

問合先 地域創生課 ☎(275)6138

01 中学生が世界と出会う

戸島大使が市内中学校を訪問し、生徒たちと交流。講演や質疑応答を通じて、世界の文化や国際社会への理解を深める貴重な機会となりました。戸島大使やマダガスカルでインフラ整備に携わる大豊建設株式会社様、高石市出身の元海外協力隊員で現 JICA 勤務の福井妙恵氏から現地の話を聞き、生徒たちは世界で活躍する日本企業の姿や国際協力の現場を学びました。



こどもたちが マダガスカル大使に聞いてみた



❓ マダガスカルの学校行事は
どのようなものがありますか？



学校祭があって、劇やダンスを発表したり、遠足にも行ったりします。自然が豊かなので、よくハイキングに行ったりするそうです。

❓ 大使はどんな仕事をしていますか？



日本の方々が安心して暮らしたり旅行したりできるよう支援すること、日本とマダガスカルの交流を深めることが主な仕事です。両国の政府や関係者と連携し、相互理解や協力を進めています。

02 熱中症予防と環境教育を両立する

大阪・関西万博で使用された「ウォータークーラー」で、全校の児童生徒たちの学校生活における熱中症対策として大きな役割を果たします。このウォータークーラーは、給水回数により Co2 削減量が測定可能であり、児童生徒たちの行動が、どれだけ地球を守ることに繋がるか、環境問題を自分事として捉えるきっかけとなります。さらに、本事業の実施に当たりましては、「将来を担うこどもたちに役立てていただきたい」と遺贈いただいた、故・三宅夫紀子様の寄附金を「三宅みらい教育基金」として創設し、同基金を財源としてウォータークーラーを設置いたしました。



©Expo 2025



03 万博から生まれた、高石市だけの味。

マダガスカル産バニラビーンズとの出会いから誕生した特製バニラジェラート。地域企業の株式会社フォレストバンクとの連携により商品化され、市内で味わえるほか、ふるさと納税返礼品として全国へ届けられています。

滝の流れるカフェ
ら・さぼうる

取石 4-15-28



ふるさと納税限定
奇跡のバニラジェラート



04 万博レガシーはこれからも続きます

大阪・関西万博の会場で親しまれた樹木が、新たに高石市の公園で根を下ろします。市内の八幡公園、北公園、大歳公園にそれぞれシマトネリコを植樹します。市制施行 60 周年の記念すべき節目を迎える本年、11月中旬から12月中旬にかけて各公園でお披露目イベントを開催予定です。万博のレガシーを未来へ受け継ぎながら、こどもたちの成長とともに樹木も育ち、人と人との交流として育む公園として、末永く長く親しまれる空間を創出します。



読売新聞に「万博給水器」の記事が掲載されました。

pick up!

**万博給水器
大切にしよう**
高石市全小中に設置



設置された給水器から水筒に水を注ぐ児童（高石市で）

高石市は大阪・関西万博の会場で使用された給水器を市立加茂小学校に設置し、2日に除幕式を開いた。市は、同小を含めた市内の全小中学校10校に導入。万博会場中は会場内に給水器が設置され、プラスチックごみを削減するため、来場者にマイボトル持参が呼びかけられた。高石市は当初、熱中症対策として給水器の設置を検討していたが、万博会場で実際に使われた給水器を導入することで、マイボトル利用の習慣化など環境教育にも活用できると考えたという。

2026年6月3日 読売新聞掲載

ミヤクミヤク救急車 ▶▶ 茨木市消防



給水器 ▶▶ 高石市の全小中



高石市は、万博会場で実際に使われた給水器を導入することで、マイボトル利用の習慣化など環境教育にも活用できると考えたという。

府産木材ベンチ ▶▶ 小学校や幼稚園

**万博レガシー
紡ぐ新天地**
閉幕半年



2026年4月14日 読売新聞掲載